

下田市立学校統合準備委員会

中学校再編に関する説明資料

平成30年5月 下田市教育委員会学校教育課

説明資料目次

これまでの経過について

- 1 平成26年度以前の経過 3
- 2 平成27年度の経過 4
- 3 平成28年度の経過 5
- 4 平成29年度の経過 6

総合教育会議報告書について

- 1 総合教育会議報告書策定の経緯 7
- 2 総合教育会議における中学校再編
に関する方向性について 8
- 3 今後の中学校再編に関する検討について . 9

教育委員会報告書について

- 1 教育委員会報告書策定の経緯 10
- 2 今後の方向性について 11
- 3 既存中学校の跡地利用について 12

再編整備審議会について

- 1 再編整備審議会審議経過について 13
- 2 再編整備審議会答申について 14

市の方針について

- 1 中学校再編に関する市の方針について 16
- 2 下田中学校の現況 17
- 3 下田中学校からの2・4・6km距離について . 18
- 4 各地区から下田中学校までの路線バス
乗車時間について（既存ダイヤ） 19
- 5 遠距離通学方法の考え方 20

今後の中学校再編について

- 1 下田市立学校統合準備委員会組織について . 21
- 2 平成30年度以降のスケジュール(案)について . 22
- 3 統合準備タイムスケジュール(案)について . 23

【参考】今後の生徒数推移

これまでの経過について①

1 平成26年度以前の経過

年 月	事 柄	主な内容
H19.12	下田市立小・中学校再編整備について（答申） （下田市立学校等再編整備審議会 →下田市教育委員会）	・単学級編成の学校において少人数による支障が教育活動に生じてくる場合は、市内4中学校体制を検討し新たな中学校体制を構築する。 ・平成22年4月1日に稲梓中学校と稲生沢中学校を統合し、稲生沢中学校校舎に新中学校を創設する。
H21.5	教育委員会で統合先送りの結論（5月定例会）	・稲梓中学校と稲生沢中学校の統合は、当面先送りする。ただし、保護者・地域からの要望によっては統合に向け前向きに取り組んでいく。 ※当時の保護者や地域住民の方の十分な同意を得ることができなかったため。
H26.12	学校再編整備について（諮問） （下田市教育委員会 →下田市立学校等再編整備審議会）	・少子化の流れが更に加速し、教育環境を取り巻く状況は変化を続けており、今後の児童生徒数の動向を見据えつつ、平成19年当時の答申を踏まえ、学校教育環境のあり方について、意見を求める。
H27.3	学校再編整備について（答申） （下田市立学校等再編整備審議会 →下田市教育委員会）	・市内中学校は、近い将来、少人数による教育課題が生じる可能性。将来的には中学校は一つということも、視野に入れて再編を考えていくべきと思われる。 ・現状では、中学校の再編による課題を一つずつ認識し、その第一段階として、稲梓中学校と稲生沢中学校を統合し、現在の稲生沢中学校校舎に新たな中学校を構築すべきである。 ・下田東中学校が単学級となった場合、下田中学校との統合を推進。更には、将来は下田市に中学校は一つということも視野に入れ中学校再編を考えていく。

これまでの経過について②

2 平成27年度の経過

年 月	事 柄	主な内容
H27.4	第1回下田市総合教育会議	・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正について ・ 下田市総合教育会議設置要綱について ・ (仮称)下田市教育大綱について
H27.6	学校等再編整備審議会答申に関する説明会	・ 4中学校区ごと開催 小中PTA役員対象 97人参加
H27.10	第2回下田市総合教育会議	・ 下田市教育大綱(案)について ・ 新給食センターについて ・ 学校再編について
H27.12	第3回下田市総合教育会議	・ 下田市教育大綱(案)について ・ 学校再編について
H28.1	学校再編アンケート調査実施	・ 市内小中学校のすべての保護者及び教職員を対象 回答数：1,131(保護者984・教職員147) 保護者回答率67%
H28.2	第4回下田市総合教育会議	・ 学校再編について

これまでの経過について③

3 平成28年度の経過

年 月	事 柄	主な内容
H28.4	第1回下田市総合教育会議	・学校再編アンケートの分析結果について ・学校等再編方針検討会の設置及び今後のスケジュールについて ・庁内プロジェクトチームの設置について
H28.5 H28.7	下田市総合教育会議懇談会	・報告書内容の事前協議（2回開催）
H28.8	第2回下田市総合教育会議	・「下田市立中学校再編に係る報告書」策定
H28.10	第1回下田市立中学校再編検討会議	・総合教育会議報告書概要説明及び今後のスケジュールについて ※再編検討会議＝再編に関する意見を聴取する組織
H28.10～ H28.11	市長と語る会・保護者説明会	・市内6地区ごと ・4中学校学区及び幼保こども園（全8回）
H28.10～ H28.12	保護者・教職員アンケート調査実施	・市内幼保こども園、小中学校保護者及び教職員を対象 配付1,882 回収1,222 回収率65%
H28.11	下田市立中学校再編検討会議 中学校視察	・稲生沢中学校及び下田中学校視察
H28.12	第2回下田市立中学校再編検討会議	・中学校学区別意見交換
H29.2	第3回下田市立中学校再編検討会議	・「下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地等に関する報告書（案）」概要説明
H29.3	教育委員会3月定例会	・「下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地等に関する報告書」策定

これまでの経過について④

4 平成29年度の経過

年 月	事 柄	主な内容
H29.4	第1回下田市立学校等再編整備審議会	・ 諮問、中学校再編経過説明
H29.5	第2回下田市立学校等再編整備審議会 及び中学校現地視察	・ 稲生沢中学校及び下田中学校視察 ・ 中学校視察に関する意見交換 ・ 答申案作成に向けた検討
H29.7	第3回下田市立学校等再編整備審議会	・ 中学校再編に関する答申案の協議及び決定
H29.7	下田市立学校等再編整備審議会答申	・ 会長及び副会長による答申
H29.7	第1回下田市総合教育会議	・ 中学校再編に関する検討経過について ・ 下田市立中学校の再編について
H29.8	下田市政策会議	・ 中学校再編整備に係る方針決定について
H29.9	下田市議会	・ 中学校再編整備に係る市の方針決定を報告
H29.10～ H29.11	市長と語る会・保護者説明会	・ 市内6地区ごと ・ 7小学校学区及び幼保こども園（全11回）
H30.2	第1回下田市立学校統合準備委員会	・ 諮問、中学校再編経過説明

総合教育会議報告書について①

1 総合教育会議報告書策定の経緯

平成27年3月26日 下田市立学校等再編整備審議会 答申内容（中学校部分）

- ・稲梓中と稲生沢中との統合
- ・下田東中が単学級となった場合の下田中との統合
- ・将来において、下田市に中学校は一つということも視野に入れた中学校再編を考えていく



下田市総合教育会議（構成員：市長、教育長、教育委員4名 計6名）

- ・二つの中学校に統合した数年後に再び一つに統合することへの懸念
- ・少子化が進行している中、4校を一度に統合するという方法も考えることができるのではないか



中学校の規模に関わる諸課題や学校再編アンケートの検証、下田市立4中学校の生徒数推移及び現状などを踏まえ、協議、検討し、報告書を取りまとめ

総合教育会議報告書について②

2 総合教育会議における中学校再編に関する方向性について

下田市総合教育会議では、中学校の規模に関わる諸課題や学校再編アンケートの検証、下田市立4中学校の生徒数推移及び現状などを踏まえ、協議、検討した結果、以下の方向性を示しました。

1 中学校の統合手法について

方向性 下田市立4中学校を一度に統合する1校化の手法が望ましい。

理 由 ① 稲梓中学校と稲生沢中学校を統合したとしても再び単学級の発生が近い将来見込まれるため。

② 国が示す標準規模校（学級数が12学級から18学級）の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせていくため。

2 新中学校候補地について

中学校設置基準、既存4中学校跡地の活用、防災面での安全性及び国の基準を参考に市内全域からの通学を考慮した結果、現在の稲生沢中学校または下田中学校とするのが望ましい。

総合教育会議報告書について③

3 今後の中学校再編に関する検討について

今後の中学校再編に関する検討は、報告書に以下のとおり記載されており、この記載内容に基づき、更に協議及び検討を進めてきました。

今後の中学校再編の検討に当たっては、生徒の教育環境を守り、改善することを第一目的とし、次の点に留意し進める必要があります。

- 1 下田市総合教育会議では、4校を一度に統合する1校化の手法が望ましいという結論に達しましたが、今後、更なる中学校再編に関する課題の検討等を行うため、保護者、地域住民、学校関係者から成る会議を設置し、具体的課題解決への方策を検討すること。
- 2 アンケート分析の結果、中学校再編に関する情報について、保護者等に対し十分に伝達されていない状況が伺えるため、方針を明確に示したうえで、保護者、地域住民等に対する説明会を開催すること。
- 3 今後、人口減少がより進行し、これまで学校を中心に培ってきた教育環境や地域の文化伝統の維持継承が困難となることが予測されるため、中学校と地域とのつながりをより強固とする方策を検討すること。
- 4 これまでの下田市総合教育会議の協議内容や検討資料等を別冊として取りまとめたのでそれらを基に再編について検討すること。

教育委員会報告書について①

1 教育委員会報告書策定の経緯

平成28年8月26日「下田市立中学校再編に係る報告書（下田市総合教育会議策定）」で示された方向性

- ・下田市立4中学校を一度に統合する1校化の手法とするのが望ましい。
- ・新中学校候補地について、稻生沢中学校または下田中学校跡地とするのが望ましい。



下田市教育委員会として、中学校再編に係る課題について、様々なご意見を聴取する必要があると判断。意見を取りまとめるとともに、それら意見から教育委員会としての方向性を示すため、報告書を策定。

【意見を聴取するための取り組み】

- (1) 下田市立中学校再編検討会議の設置
- (2) 総合教育会議報告書保護者説明会の開催
- (3) 市長と語る会の開催
- (4) 総合教育会議報告書中学校再編に係るアンケート調査の実施

教育委員会報告書について②

2 今後の方向性について

総合教育会議報告書において、「段階を踏まず、4校を一度に統合する1校化の手法が望ましい」と示されたことから、下田市教育委員会では、中学校再編に係る課題について、下田市立中学校再編検討会議やアンケート調査などから貴重なご意見を聴取させていただき、次のとおり、今後の方向性を取りまとめました。

1 校舎位置

方向性 現在の下田中学校敷地を利用し、新たな中学校を設置したい。

理 由 下田市総合教育会議において、新中学校候補地は、「現在の稲生沢中学校または下田中学校とするのが望ましい」という方向性が示されました。下田市立中学校再編検討会議での意見やアンケート結果、既存学校施設状況、周辺環境なども含め総合的に検討した結果、生徒の学習環境を守り、改善していくことを第一目的とした場合、現在の下田中学校敷地が望ましいという方向性に至りました。しかし、懸念とされている通学における防災や防犯などの安全性を高めるための対応やその他の課題については今後、更なる検討を行う必要があります。

教育委員会報告書について③

2 今後の方向性について

2 通学補助

方向性 保護者への負担を考慮すると全額補助としたいが、最低でも現在、負担していただいている以上の負担はかけないことを前提に、継続して検討する。

理 由 市内全域からの通学となるため、教育を受けるための不公平感の是正、時間的、精神的制約への対応を考慮すると全額補助が望ましいと認識していますが、市の財政状況を考慮すると現在、保護者に負担していただいている以上の負担はかけないことを前提に、今後、更なる検討を行う必要があります。

3 建設手法

方向性 既存学校施設を最大限活用した大規模改修を視野に入れ、継続して検討する。

理 由 下田市立4中学校を一度に統合するためには、多額な事業費が必要となりますが、現在の市の財政状況を考慮すると既存学校施設や補助制度を最大限活用した大規模改修を視野に入れ、今後、更なる検討を行う必要があります。

3 既存中学校の跡地利用について

下田中学校以外の既存中学校の跡地利用については、今後、中学校再編に係る政策決定を行った後に検討します。また、まちづくりの観点からも跡地利用は非常に重要なことから、市としても全庁的な対応にて、地域との協議を進める予定です。

再編整備審議会について①

1 再編整備審議会審議経過について

教育委員会では、教育委員会報告書で示した今後の方向性に基づき、教育委員会の附属機関である下田市立学校等再編整備審議会に諮問し、答申を受けました。

日 程	事 項	主な内容
平成29年4月27日	第1回審議会	・ 諮問、中学校再編経過説明
平成29年5月29日	中学校視察及び第2回審議会	・ 稲生沢中学校及び下田中学校視察 ・ 中学校視察に関する意見交換 ・ 答申案作成に向けた検討
平成29年7月4日	第3回審議会	・ 中学校再編に関する答申案の協議及び決定
平成29年7月18日	審議会答申	・ 教育委員会への答申（会長・副会長）

※これまでに取りまとめられた「下田市立中学校再編に関する報告書」「下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地に係る報告書」などの資料をもとに、中学校視察も行い、慎重に審議を重ねました。

再編整備審議会について②

2 再編整備審議会答申について

審議会答申内容

1 下田市立中学校の再編整備について

(1) 再編手法及び校舎位置について

今後の生徒数、既存学校施設状況、周辺環境などを含め、総合的に検討した結果、より良い生徒の学習環境を創造するためには、現在の下田中学校敷地を利用し、4校を1校化する新たな中学校を設置すること。

(2) 通学補助について

市内全ての中学校を再編することから、これまで以上に通学に係る時間及び経費が掛かり、生徒・保護者の負担が増加するため、通学費については、保護者の負担に不公平が生じないよう行政が全額を補助すること。

(3) 建設手法について

生徒の教育環境の充実を図るため、既存学校施設を長寿命化する大規模改修とし、補助制度を最大限活用した上で、安心・安全で快適な学校施設を整備すること。

(4) その他について

ア 中学校再編の時期について

現在、平成33年度以降のできるだけ早い時期に中学校再編を行うとした上で協議を進めているが、具体的な時期について、早急に明らかにすること。

再編整備審議会について③

2 再編整備審議会答申について

審議会答申内容

(4) その他について

イ 通学に係る安全対策について

通学に係る安全対策については、最低限確保されるべき問題であり、自宅と学校との間を安全に登下校できる環境整備を最優先で検討すること。

ウ 再編時期にあたる生徒への配慮について

再編時期にあたる生徒に対しては、事前に学校間交流などを実施することにより、生徒たちの不安を可能な限り解消すること。また、下田中において仮設校舎となる環境になった場合には、その中でもより良い環境を目指し、細かな配慮をすること。

エ 保護者に対する説明会開催について

当審議会の答申後、保護者に対し説明会を開催するとともに、市当局として具体的な方策を持って臨むこと。

オ 下田市立学校統合準備委員会について

当審議会の答申後、下田市教育委員会の附属機関である「下田市立学校統合準備委員会」において、中学校再編に係る具体的な協議に入ると想定されるが、生徒の学習環境を守り、改善することを第一目的とするとともに、協議内容についても全ての子どもたち、保護者及び地域住民などに分かるよう情報提供を行うこと。

カ 中学校跡地利用について

中学校再編後の跡地利用については、今後のまちづくりの観点からも非常に重要なことから、地域住民などの意見を尊重し、慎重な検討を行うこと。

市の方針について①

1 中学校再編に関する市の方針について

平成28年8月に下田市総合教育会議で示した方向性に基づき、様々なご意見を頂きながら検討を進め、平成29年7月に附属機関である下田市立学校等再編整備審議会から下田市立中学校の再編整備についての答申を受けました。その後、下田市総合教育会議にて協議・調整し、平成29年8月に下田市政策会議において、答申を尊重しつつ、**平成34年(2022年)4月新中学校開校を目標に（現在小学校3年生が新中学校1年生なる年）中学校再編整備を推進していく方針を決定しました。**

(1) 再編手法及び校舎位置について

今後の生徒数、既存学校施設状況、周辺環境などを含め、総合的に検討した結果、より良い生徒の学習環境を創造するため、現在の下田中学校敷地を利用し、4校を1校化する新たな中学校を設置します。

(2) 通学について

市内全ての中学校を再編することから、これまで以上に通学に係る時間及び経費が掛かり、生徒・保護者の負担が増加するため、通学距離が概ね4km以上の生徒に対しては、路線バス通学定期券の支給やスクールバス運行、通学距離が概ね2kmから4kmまでの生徒に対しては、自転車(電動アシスト付自転車含む)及びヘルメット購入費補助を基本とし、その対策を講じます。

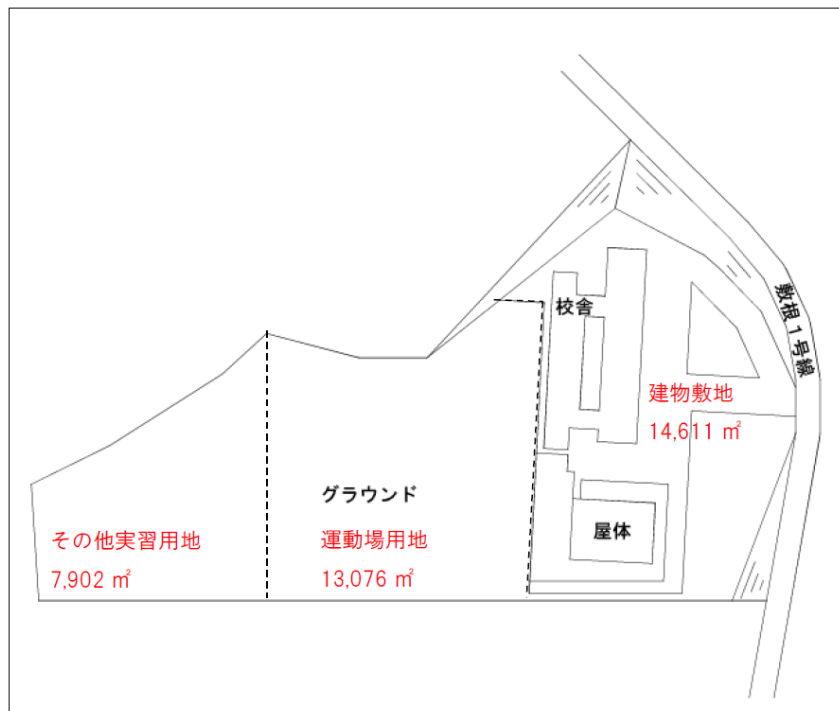
※今後、統合準備委員会等で最終的な決定をしていきます。

(3) 建設手法について

生徒の教育環境の充実を図るため、既存学校施設を長寿命化する大規模改修とし、補助制度を最大限活用した上で、安心・安全で快適な学校施設を整備します。

市の方針について②

2 下田中学校の現況



ランク	東海地震に対する耐震性能
I	la 耐震性能が優れている建物。 軽微な被害にとどまり、地震後も建物を継続して使用できる。 lb 耐震性能が良い建物。 倒壊する危険性はないが、ある程度の被害を受けることが想定される。
II	耐震性能がやや劣る建物。 倒壊する危険性は低いが、かなりの被害を受けることも想定される。
III	耐震性能が劣る建物。 倒壊する危険性があり、大きな被害を受けることが想定される。

(注) 建築基準法上で耐震性を有するとされる建築物はランクIとランクII

	区分	建物敷地	運動場用地	その他用地	計
土地 m²	市保有	14,611	13,076	7,902	35,589
	借地	0	0	0	0
	計	14,611	13,076	7,902	35,589

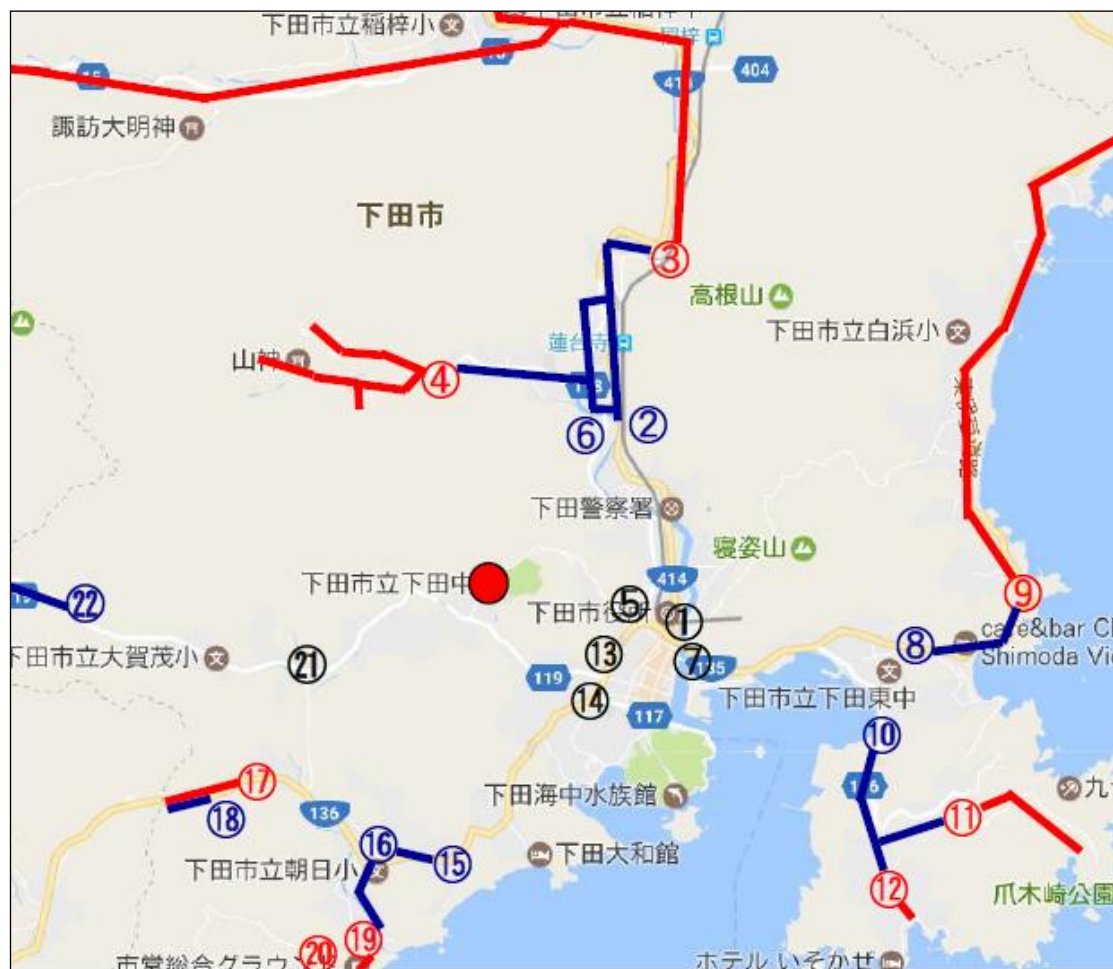
	区分	建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク
建物 m²	校舎	1984 (築34年)	鉄筋コンクリート造	2	5,193	I b
	体育館	1985 (築33年)	鉄筋コンクリート造	2	1,128	I b
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。						

○周辺環境

周辺環境としては、北側と南側を山に挟まれ、東側に敷根公園、西側にこども園及び住宅地と隣接している。交通面では敷地北側市道敷根1号線に面し、片側1車線道路で歩道整備もされている。

市の方針について③

3 下田中学校からの2・4・6km距離について



【稲梓・稲生沢方面】

国道 414 号線	①下田駅入口交差点付近 2 km
	②柳生入口交差点付近 4 km
	③重願寺先カーブ付近 6 km
県道蓮台寺立野線	④大沢口バス停付近 6 km
市道土浜高馬線	⑤こむらさき付近 2 km
	⑥本郷橋付近 4 km

【白浜・外浦方面】

国道 135 号線	⑦新下田橋付近 2 km
	⑧上の山鎮目クリニック付近 4 km
	⑨ペンション青い海付近 6 km

【須崎・柿崎方面】

県道須崎柿崎線	⑩下田ポートサービス付近 4 km
市道須崎線	⑪須崎御用邸付近 6 km
	⑫川上バス停付近 6 km

【田牛・吉佐美方面】

国道 136 号線	⑬シルバー人材センター付近 (数根 1 号線経由) 2 km
	⑭ローソン付近 (岩下経由) 2 km
	⑮入田浜入口付近 (岩下経由) 4 km (大賀茂経由 4.5 km)
	⑯吉佐美バス停付近 (岩下経由) 4.6 km (大賀茂経由 4 km)
	⑰テイクワン付近 6 km (大賀茂経由 3.7 km)
	⑱マリンジャンボ入口付近 (大賀茂経由 4 km)
市道吉佐美田牛線	⑲総合グラウンド付近 6 km (大賀茂経由 5.7 km)
	⑳田中第一隧道付近 (大賀茂経由 6 km)

【大賀茂方面】

県道下田南伊豆線	㉑金山バス停付近 2 km
	㉒堀切バス停付近 4 km

※赤字：6 km、青字：4 km、黒字：2 km

※ 4 km地点から下田中までの電動アシスト付自転車での時間

②【往路：約 18 分】 ⑥【復路：約 12 分】

⑩【往路：約 18 分・復路：約 17 分】

⑮【往路：約 18 分・復路：約 14 分】

市の方針について④

4 各地区から下田中学校までの路線バス乗車時間について (既存ダイヤ)

地 区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間なし)
稲梓地区	加増野	14.8 km	30 分
	北の沢	13.0 km	31 分
稲生沢地区	大沢口	6.0 km	17 分
白浜地区	板戸一色	9.5 km	20 分
浜崎地区	須崎海岸	6.3 km	18 分
	爪木崎	7.7 km	28 分
朝日地区	田牛	7.6 km	23 分
	銭瓶峠	6.4 km	18 分
	堀切	3.9 km	10 分
下田地区	下田駅	1.8 km	5 分
※参考 平均		7.7 km	20.0 分
距離区分		時間区分	
5 km未満	2 か所	10 分未満	1 か所
5 km以上 10 km未満	6 か所	10 分以上 20 分未満	4 か所
10 km以上	2 か所	20 分以上 30 分未満	3 か所
—	—	30 分以上 40 分未満	2 か所
—	—	40 分以上	0 か所

下田中学校までの距離及び時間で最も遠かったのは、加増野停留所14.8km、北の沢停留所31分、平均は7.7km、20.0分でした。区分ごとに整理すると距離では5 km以上10km未満が6 か所、時間では10分以上20分未満が4 か所で最も多い結果となりました。

市の方針について⑤

5 遠距離通学方法の考え方

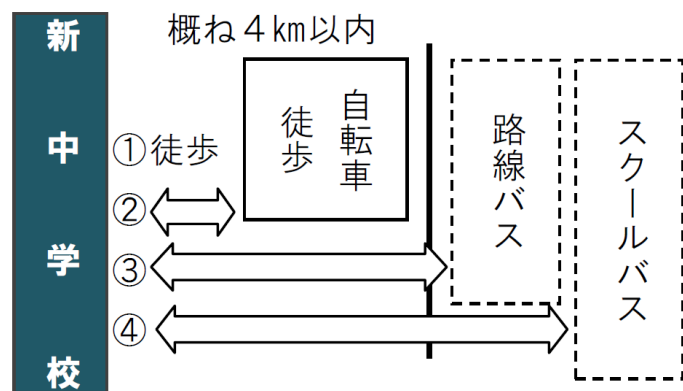
(1) 通学方法の考え方

新中学校への通学方法を以下のとおり、現在検討しています。

また路線バス沿線地域では、路線バス利用を検討、路線バス等が利用できない地域はスクールバスの運行という流れで検討しています。※今後、統合準備委員会等で最終的な決定をします。

○新中学校への通学

- | | | |
|----------------------------|---|-----------|
| ①概ね 2 km以内 | = | 徒歩 |
| ②概ね 2 kmを超え 4 km以内 | = | 徒歩又は自転車利用 |
| ③概ね 4 kmを超える | = | 路線バス利用 |
| ④概ね 4 kmを超えるが、路線バス等が利用できない | = | スクールバス利用 |



(2) 通学に関する補助等について

通学に関する補助等は、以下のとおり、現在検討しています(以下内容は現在の市の決定事項)。

- ①自転車(電動アシスト付自転車含む)ヘルメット購入費補助
(上限額:自転車40,000円・ヘルメット2,000円 計42,000円・補助率1/2)
- ②路線バス通学補助(定期券現物支給・4か月定期×3回分【365日分全て補助】)
- ③スクールバスの購入(賀茂逆川線:下箕作から賀茂逆川の生徒を対象に2台想定)
運行についても部活動行事に合わせ、土日等も対応。

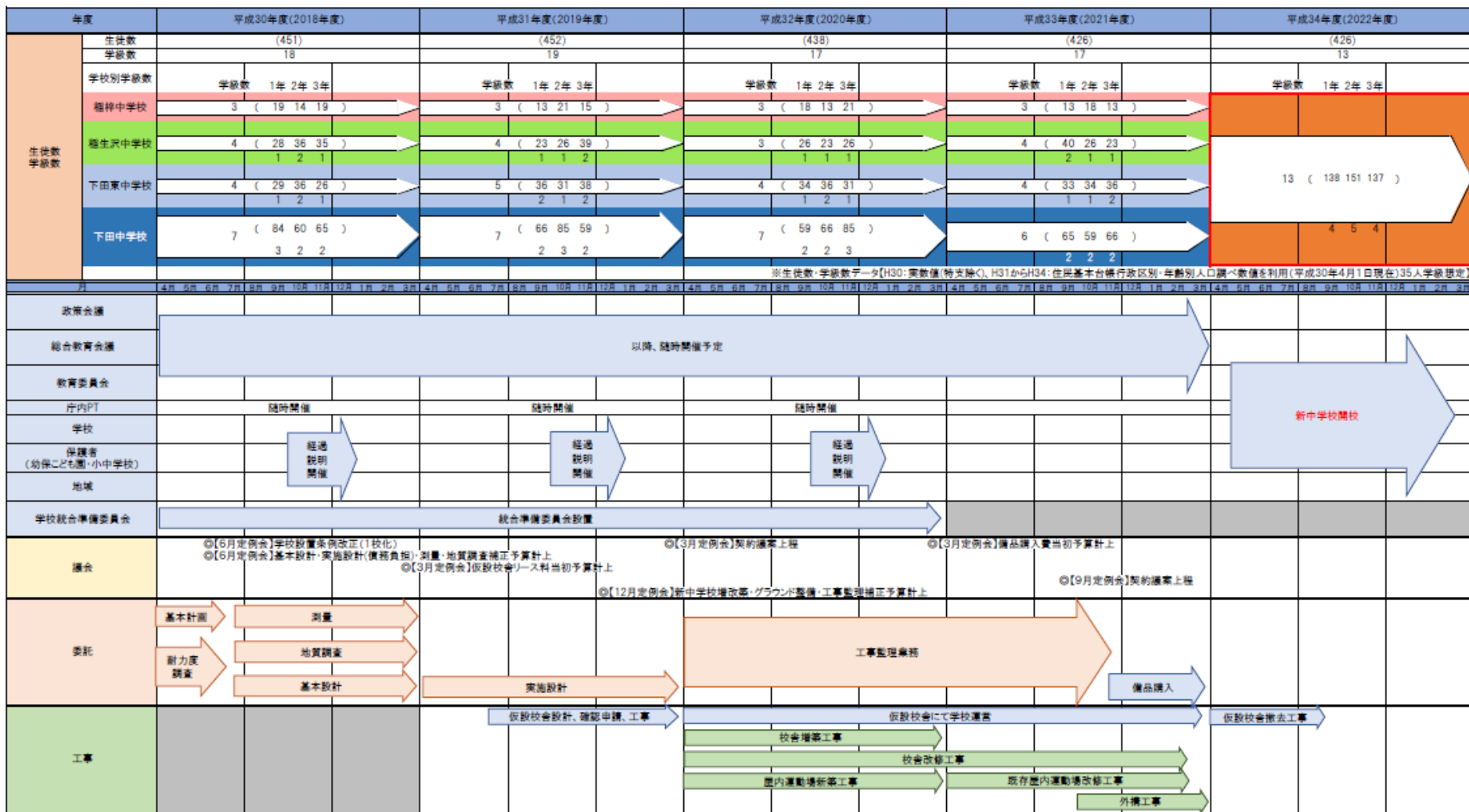
今後の中学校再編について①

1 下田市立学校統合準備委員会組織について



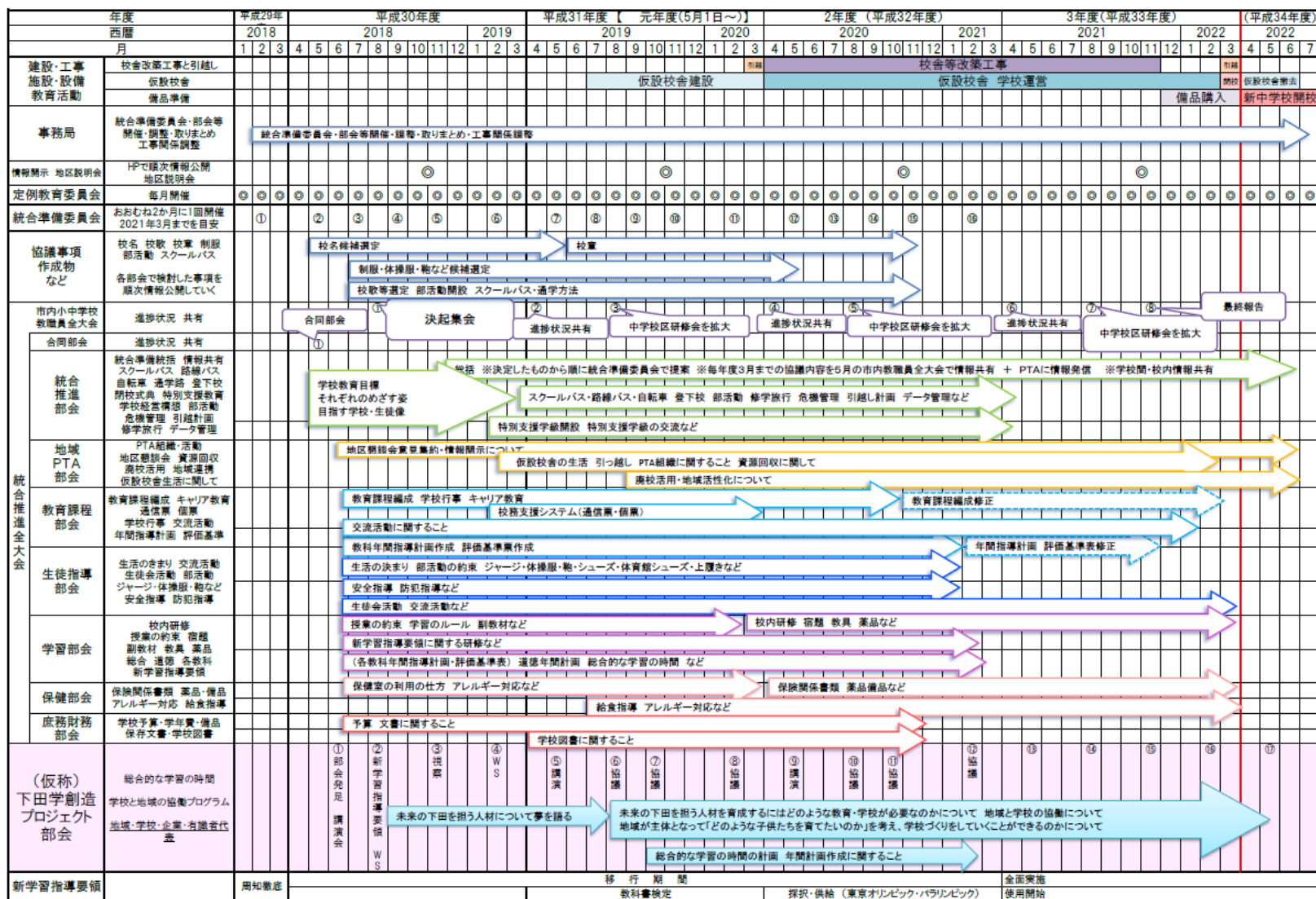
今後の中学校再編について②

2 平成30年度以降のスケジュール(案)について

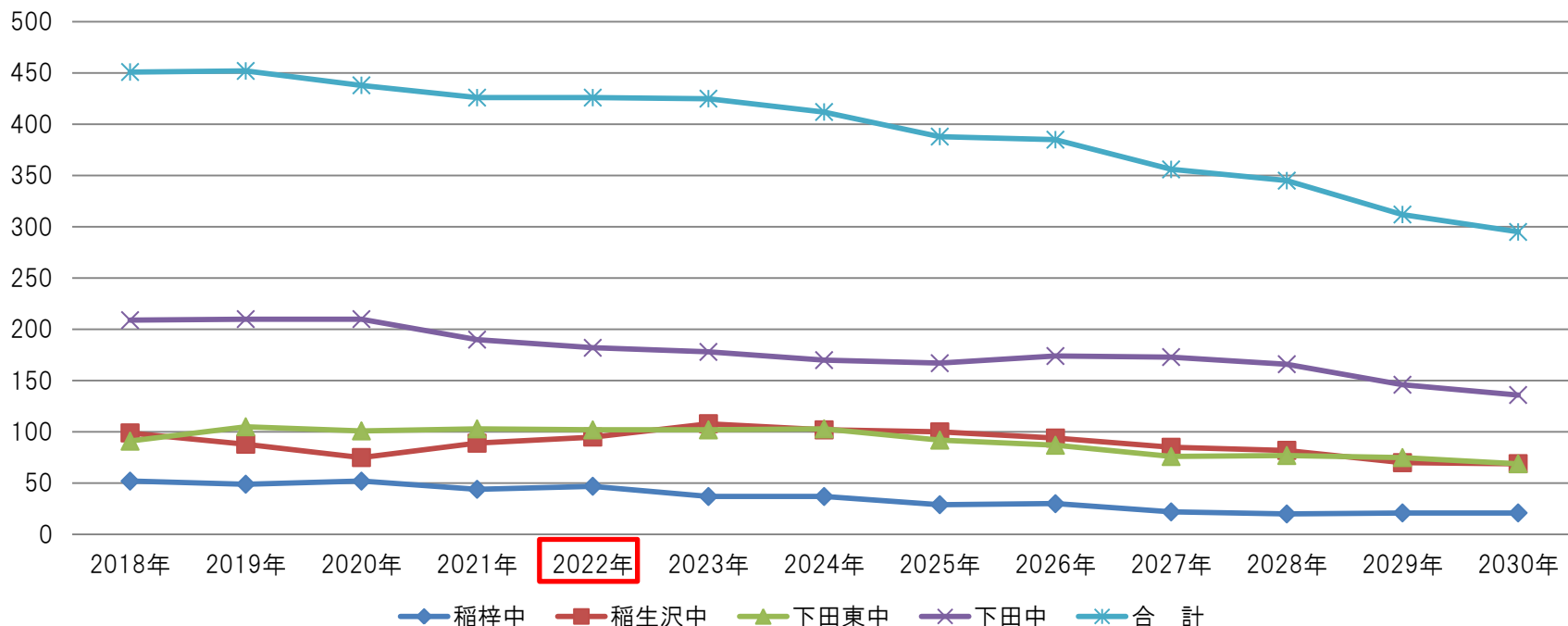


今後の中学校再編について③

3 統合準備タイムスケジュール(案)について



【参考】今後の生徒数推移



学校名	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023	H36 2024	H37 2025	H38 2026	H39 2027	H40 2028	H41 2029	H42 2030
稲梓中	52	49	52	44	47	37	37	29	30	22	20	21	21
稲生沢	99	88	75	89	95	108	102	100	94	85	82	70	69
下田東	91	105	101	103	102	102	103	92	87	76	77	75	69
下田中	209	210	210	190	182	178	170	167	174	173	166	146	136
合 計	451	452	438	426	426	425	412	388	385	356	345	312	295

※平成34年(2022年)4月に新中学校設置予定ですが、平成34年度以降も現在の4中学校ごとの生徒数を参考までに掲載。
 ※平成30年度のみ実数、平成31年度以降数値データは平成30年4月1日時点住民基本台帳行政区別年齢別人口調べ利用。